



# クマとの共存を図り、人身被害を防ぐ



## クマとの共存を図る

クマとの共存を図る

「ベアドッグ」導入のご提案



## 持続可能な対策

人もクマも傷つけない持続可能な対策  
アドルブマネージメントサービス株式会社

酪農学園大学・野生動物生態学研究室



# 現状の課題：駆除一辺倒のリスク



## クマ被害の深刻化

- ・ 人里への頻繁な出没と人身被害の多発
- ・ 現状は原因分析なき「大量駆除」が中心



## 駆除による生態系・人間社会への駆除の影響

- ・ 頂点捕食者の絶滅＝森林劣化、水源喪失(ニホンオオカミの二の舞)
- ・ 山崩れや土石流など、結果として人の命を脅かす
- ・ 「クマを救うこと」は「人を守ること」である



# 解決策：ベアドッグの導入 (カレリアン・ベア・ドッグ)



## ベアドッグとは

### ■ベアドッグとは

- ・クマの匂いを察知し、吠えて森の奥へ追い払う訓練を受けた犬
- ・人を守り、クマも傷つけずに「棲み分け」を実現



## 導入実績と優れた能力

### ■導入実績

- ・長野県軽井沢町(ピッキオ)での活動後、数年間にわたり人身被害ゼロ



## 犬種の特徴

### ■犬種の特徴

- ・フィンランド原産、白黒のツートンカラー
- ・1頭で一般犬5頭分の仕事をこなす優秀な能力



# カレリアン・ベア・ドッグ

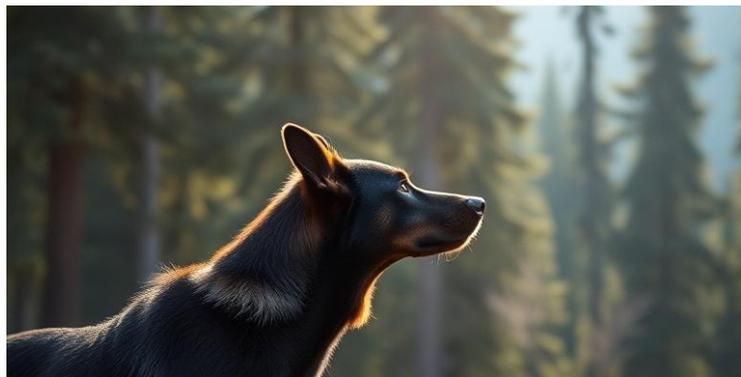
## Karelian Bear Dog



- 古くからヒグマ猟の場で活躍
- ロシアとフィンランドの国境地帯を原産
- 体重18~29kgの中型犬
- 白と黒のツートンカラーが特徴的。
- 顔にはアライグマのような黒いマスク模様があって、とってもキュート、人間には脅威を与えない
- クマに対して、決してひるむことはない
- 後ずさりをしない。絶えず向かっていき、クマを追い込んでいく
- ベアドッグとして最も相応しい



# ベアドッグの3つの特徴



## 早期警戒と追い込み能力

- ・優れた嗅覚で遠方のクマを発見し、ハンドラーにクマの存在を知らせる
- ・クマは逃げるものを餌(敵)として認識
- ・クマに対して決して背を向けない
- ・激しく吠え立てクマを追い込んでいく



## 追跡調査

- ・クマの残り香から移動ルートをトレース
- ・現在地を特定しハンドラーに伝達
- ・「どこへ行ったか」「まだ近くにいるか」等の情報提供をハンドラーに知らせる



## 侵入防止(マーキング)

- ・人間社会との境界線を引く
- ・犬の匂いでテリトリーを示し、クマに危険地帯と認識させる



# 国内初の安定的繁殖システムの確立



## 背景

- ・輸入頼みでは継続的な育成が困難
- ・成犬の輸入コストは莫大
- ・冷凍精子の輸入は扱いやすく安価



## 弊社の強み

- ・繁殖担当: 諏訪義典(取締役/元北海道盲導犬協会)繁殖の第一人者
- ・30年にわたる盲導犬育成と人工授精(凍結精子)の技術を活用
- ・アメリカまたはフィンランド本国との連携ネットワーク(アメリカまたはフィンランドで検討中)



## 【設備】

- ・北海道恵庭市に800坪の繁殖・育成拠点を確保

## 【必要設備】

- ・繁殖棟
- ・飼育棟
- ・事務棟
- ・ハンドラー養成棟

第一世代をメス1頭とした時、年間の繁殖数

## 【課題】

- ・建物の整備資金の不足
- ・運営活動費の不足

※写真は繁殖担当: 諏訪獣医師



# ハンドラーの養成が退職自衛官の再就職先の道を拓く

## 指導体制

・対策担当チーフ:在フィンランド日本国大使館に協力要請をし、現地のハンドラーを雇用して指導体制を構築する

・連携:自衛隊地方協力本部

一般社団法人自衛隊援護協会

ハンドラー養成教育は北海道で行いますが、その後はベアドックとともに出身地域に戻っていただき、自宅でベアドックとともに生活をしながらクマ対策に従事してもらうこととなります。

## ハンドラーの採用

・対象:陸上自衛隊「レンジャー教育」修了の退職者

・理由:山中をクマの速度で移動できる体力と規律が必要

## 社会的意義

・地方における元自衛官のセカンドキャリア支援

・国策としての自衛官待遇改善に寄与



# 今後の展開とビジネスモデル



## 事業モデル

- ・「ベアドッグ」+「訓練を受けたハンドラー」をセットで自治体に派遣
- ・派遣先の各自治体との業務提携
- ・既に複数自治体より問い合わせあり



## 展望

- ・輸入に頼らず、日本に適したベアドッグを国内供給
- ・人と自然が共生できる安全な地域社会の実現
- ・ベアドッグとしての能力寿命は限られている
- ・活躍後は各地の農家などに譲渡、地域犬として余生を過ごす